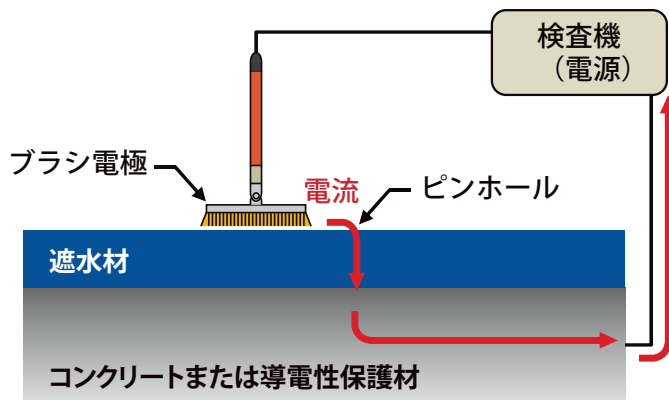
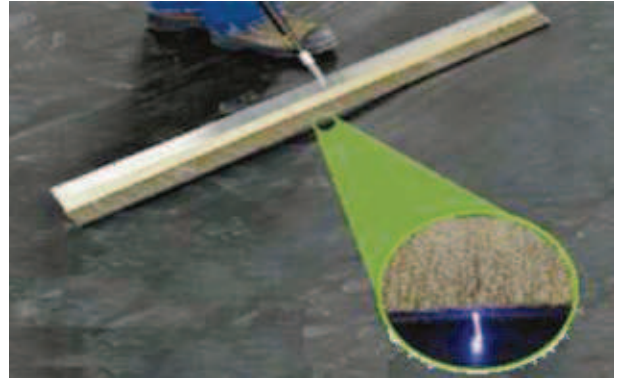


スパーク検査

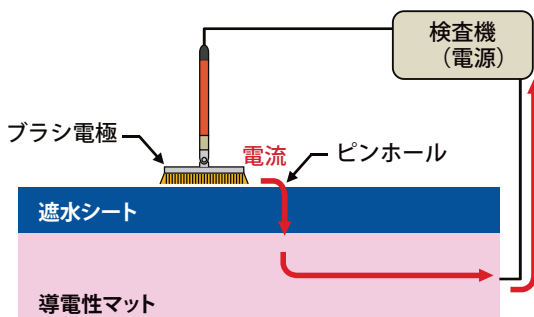
■ スパーク検査の原理

ピンホールとは、遮水材に存在する微小な欠陥のことで、ピンホールの存在は遮水の性能を著しく左右します。遮水材表面の比較的面積の大きな欠陥については目視検査による発見が可能であるが、微小な欠陥についてそのすべてを目視で確認することは不可能です。そこでピンホールの検出には、図に示すように遮水材の欠陥部を通して電流が流れる現象を利用したものです。



導電層有りの場合

遮水シートの下層に導電性のマットを敷設することで検査機によるスパーク検査が可能となります。



導電層なしの場合

下地が鉄筋コンクリートの場合、専用検査機によるスパーク検査が可能です。

